

事例⑦ 「価値理解能力」を高める実践 [小学校第6学年：体育]



■ 山田小学校第6学年では、「価値理解能力」を高めるために、体育の単元「走り高跳びをしよう」の授業で、次のような学習活動や評価活動の工夫を行いました。

2つの主眼

- 自己の課題を解決するために、空中姿勢について、振り上げ足のあげ方や足の抜き方、体の起こし方の視点で分解図と比較して解決する。
- [価値理解能力] 友達同士の動きを観察し、見る視点を決め、高く跳ぶためのめあてを決めたり、グループで交流したりすることによって自己有用感を味わう。

学習活動の工夫

- グループで、お互いの空中姿勢を観察し、高く跳ぶための視点を分解図に記入し、交流させる。
- 学級全体で、空中姿勢をよくするための視点を確認し、グループの交流のよさと、全体交流のよさを感じさせる。

評価活動の工夫

- [学習の見通し]では、前時の助走と踏み切りの学習から、空中姿勢をどうすればよいかについて、友達空中姿勢と空中姿勢分解図を比較して解決することを示す。
- [振り返り活動]では、「めあて」と「学習の見通し」について自己評価を設定し、2名の児童の発表と教師のコメントを行う。

1 単元名	走り高跳び		
2 本時の展開	本時(4/7時間)		
	学習活動・内容	教師の手立て	学びをつくり出す能力 【価値理解能力】
	<p>1 本時の学習課題をつかみ、解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前の時間は踏み切りまでできたから、今日は…</li> </ul> <p><b>[めあて]</b>高く跳ぶための工夫をしよう</p> <p><b>[学習の見通し]</b></p> <p>①グループで解決の見通しをもつ ②グループで解決方法を探る ③記録と練習を振り返り、成果を明らかにする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空中姿勢をしっかりしよう</li> <li>・空中姿勢のポイントは何をねじることかな</li> </ul> <p>2 練習を工夫しながら、高く跳ぶための空中姿勢を見つめる。</p> <p>(1)グループ毎に、活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り上げ足が、上がらないな</li> <li>・体がななめになっているよ</li> <li>・空中分解図と比べると、足とお腹の間隔が大きいよ</li> <li>・空中姿勢をよくするためには、ロイター板を使うとよさそうだ</li> </ul> <p>(2)学級全員で、空中姿勢の改善ポイントを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで考えたことと同じだ</li> </ul> <p>3 練習したことを生かして、記録会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空中姿勢のポイントをしっかり思い出しながら跳ぶぞ</li> <li>・抜き足に気をつけて跳べた</li> </ul> <p>4 本時学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の活動のよさについて振り返る</li> </ul>	<p>◎走り高跳びの3つの動きについて確認する。</p> <p>◎学習の流れを確認できるように単元計画を掲示する。</p> <p>◎課題に応じた練習方法を見つけられるように、分解図に練習方法を加えておく。</p> <p>◎よい練習方法やよい動きをしている児童を適宜取り出し、紹介していく。</p> <p>◎グループ全体での本時の伸びを競い合っ て楽しめるようにする。</p> <p>◎学びのよさが表出するように学習ノートを工夫する。 ◎自他の伸びを認識できるように交流する時間を確保する。</p>	<p>◎これまでの課題解決の方法を想起し、本時課題解決への見通しをもつ。</p> <p>◎分解図と友達の体の動きを見比べる。(手の動き、足の動き、頭の動き)</p> <p>◎グループ達成表を用意し、各グループの伸びを実感できる。</p> <p>◎本時学習でできるようになったこと、自他のよさを明らかにする。</p>



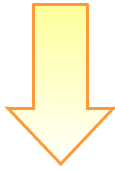
「価値理解能力」を高める学習活動・評価活動の工夫

1 高跳びの3つの動きをもとに、解決の見通しをもつ。

- (1) 記録更新の目標を設定
- (2) 目標達成のための視点を基に解決方法を設定



前の時間でやった踏み切りの後の姿勢は、どうしたらよいのか？  
グループで交流して、見通しを立てよう！



「学習の見通し」

- ① 記録更新のため、グループで解決の見通しをもつ
- ② 分解図と風船を使って、グループで解決方法を探る
- ③ 記録会の記録と練習を振り返り、成果を明らかにする

2 グループで、お互いの空中姿勢を「空中分解図」と比較して解決方法を見つける。

- (1) 視点を基にグループでお互いの空中姿勢と「空中分解図」を比較し、解決のポイントを分解図に記入
- (2) 改善についての意見交換



足の引き上げが足りない気がするよ。



分解図では膝がお腹にしっかり近づいている。ひもに風船がついているからそれをけるようにとぶといいよ。



3 全体で空中姿勢をよくするポイントや練習方法を確認する。

- (1) よりよい解決の方法を、全体の交流で確認
- (2) 解決の方法を生かす記録会での相互評価



グループで見つけた解決方法が、模範演技の足上げのポイントと同じだから、グループで話し合っよかった。



4 めあてと学習の見通しを振り返り、価値付ける。

- (1) 「めあて」と「解決の見通し」の自己評価
- (2) 2名の児童の発表と教師の価値付け



目標の記録をとぶ方法を見つけるために、友達からアドバイスを聞いて跳べた。

1 今日の自分のめあて

助走、踏み切り、空中姿勢ができるように、友だちにアドバイスをちゃんと聞いてとぶ。

2 学習を振り返って、できるようになった理由を書きましょう。

友だちからアドバイスしてもらって、手を上げたらいいよと言われて空中で高く上げたらとべました。



成果とそのための工夫のよさを確かめることは、他の学習でも活かそうですね！

この実践のよさ

- ◆ 本実践のよさは、子どもの価値理解能力を高めるために、記録を更新するための具体的なめあてを、「助走」と「踏み切り」で立て、グループで分解図を参考に、その動きと比較を行い追究する活動を積み上げているところにあります。本実践では、単元の終末で、学級全体でのグループ対抗の記録会を行うことによって、より高い目標を立て、視点をもとに解決の見通しを立て、その振り返りを行うことで自己有用感を味わわせています。
- ◆ このような学習活動の工夫は、コミュニケーション能力や課題解決能力を高めることにも効果があります。
- ◆ 「学習の見通し」の振り返りでは、振り返りシートに「めあて」と「学習の見通し」を振り返る欄を設定しています。学習の達成状況を4段階で評価させ、その根拠を「めあて」をもとに「振り返り」の自由記述欄に記入させるようにしています。その結果、子どもの記述には「グループで解決方法を考えて、全体でそれが確認できて記録に生かした」など、学び方に価値付けができるものになっています。